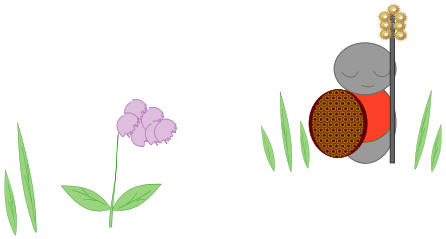
寄り道 編



写真上、「伝統行事　下折立の百八灯」
写真下、魚沼市提供　「奥只見紅葉」

第一章
おすすめ寄り道処　*佐梨川*

ぜひとも立ち寄っていただきたい佐梨川沿いのおすすめ寄り道ポイントを紹介します。

■　1　寄り道ポイント

1　魚野川改修資料館

魚野川改修資料館

展示されている漁具

魚野川の旧柳生橋付近は、川幅が狭かったために長い間洪水被害をもたらしてきました。昭和３５年には、魚野川の洪水で柳生橋に引っかかった流木が川をせき止め、街中に水が溢れ出し、大量の土砂が堆積しました。このような災害を受けて、川幅を拡げて洪水を防ぐための工事が、昭和４５年から二十数年間に渡って行なわれました。この工事に伴い、３９４戸の家屋の移転、柳生橋の架け替えなどが行なわれ、まさに世紀の大事業ともいうべきものでした。

これを記念して建設されたのが、この資料館です。

館内には、魚野川改修事業に関する資料のほか、水害の記録、昔の船運や伝統漁具などの資料が展示されています。無人の施設で、自由に入館できます。

また、資料館の周囲は芝生の広場となっていて、ベンチで休憩もできます。

2　古川のホタル生息地

小出中学校前の古川

小出中学校の脇を流れる古川は、住宅地にありながらゲンジボタルの名所になっています。この川は、地域の人たちに大切にされていて、「中央コミュニティ協議会」が主体となって川の清掃をしたり、ホタル鑑賞会を実施したりしています。

また、古川には、水草が大変豊富に生育していて、絶滅危惧種のミクリもたくさん生えています。

きれいな川は、地域の人たちの努力によって維持されています。

3　吉田地蔵尊

お堂で番をするおばあちゃん達

安産・子育ての地蔵として信仰を集めています。

地蔵様は７月２３日-２４日の祭りの日だけに御開帳されます。また、毎月１日と２４日、そしてお盆には、御開帳はされませんが、お堂が開きます。その日は、集落のおばあちゃん達が交代で番をし、訪れる人をもてなします。

お堂が開く日には、集落の人以外にも、遠くは群馬・埼玉などからも子宝に恵まれない人たちがお参りに訪れます。お堂に置かれている人形を借りて（現在では買って）いって、これを抱いて寝ると子供が授かるという言い伝えです。

１４１２年の頃には「延命子安地蔵」として祀られていた、歴史ある地蔵様です。

4　円形分水工

平成 16 年に改修された現在の円形分水工

初代の円形分水工

佐梨川で取水した水を水量に関わらず一定の割合で分ける、先人の知恵が結集された施設です。この施設のおかげで佐梨川の水は水系を越えた伊米ヶ崎地区まで運ばれ、魚沼コシヒカリを育んでいます。初代円形分水工は昭和３４年に造られましたが、老朽化が進んでいました。県内でも珍しい施設なので、できるだけ当時の形をのこしたまま、平成１６年に改築されました。見学することも可能です。

【問い合わせ先】
：魚沼土地改良区
〒９４６-００５１　新潟県魚沼市今泉１４４８-１
TEL ０２５-７９２-１３０６

5　大沢天満宮

↑　大沢天満宮境内

←　境内の大杉

広い境内の落ち着いた雰囲気の神社です。境内には湯之谷村文化財の「天満宮境内の大杉」がうっそうと聳えています。

また、境内には「殉職の碑」がひっそりと建っています。昭和 13 年 2 月 18 日の厳寒期。陸軍の大型輸送機が、ソ連軍との戦いを想定して、耐寒テスト飛行を行なっていました。熊谷から飛び立った輸送機は、奥只見上空で消息を断ちました。片貝沢の辺りで墜落したのです。捜索は、深い雪と険しい道に阻まれ難航を極めました。7 人の乗組員のうち、2 人は墜落直後はまだ生きていましたが、軽症の一人はこの中事故を知らせようと下山している最目に凍死、残る一人は墜落から 7 日目に現場から 500m ほど離れた地点で息絶えたのです。最後まで生き残っていた一人、笠井大尉が幼い子供たち 5 人に書き残した遺書も残っていました。7 人全員が遺体で発見されたのは、3 月 19 日のことでした。この痛ましい事故を悼んで建てられたのが「殉職の碑」です。

6　旧銀の道

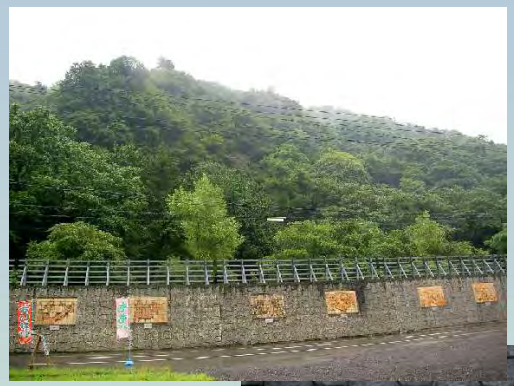
草木茂る林道も、かつては小出島と銀山平をつなぐ街道でした。その名残を道の片隅にひっそりと建つ「庚申塔」がとどめています。そして現在。この道は、春には色とりどりの草花に彩られます。ピンク色のカタクリ、黄色のオオバキスミレ、青色のミチノクエンゴサク。春のやわらかな陽射しのなか、草花と石仏に会いに来ませんか。

今ではひっそりしている旧銀の道

路傍の庚申塔

春のカタクリ

7　「天地人」ゆかりの場所



↑　兼続とお船が雪崩に巻き込まれた場所（？）

雪崩予防壁に埋め込まれた湯之谷焼きの絵図　→

今話題の「天地人」。この小説の中にも佐梨川が登場します。

兼続とお船らが、大湯温泉に逗留している知人を訪ねるために、佐梨川沿いの雪道を歩いていく場面です。そこへ、行く手の左側（佐梨川右岸斜面）から、表層雪崩が発生し、一行は巻き込まれます。幸いにして大して埋まらなかった兼続とその家臣は、お船らを捜します。雪の中から、お船が被っていた赤い頭巾が顔を出していて…。助け出したお船をしっかりと抱きしめます。

小説の記述が事実とすると、雪崩が起きた場所は、葎沢の湯之谷発電所ダムの近くだと想定されます。ここは切り立った斜面が両側から迫っていて、迂回のしようがありません。地元の有志の人たちが、この場所に「天地人」ののぼりを立て、さりげなくアピールしています。

現在はここに雪崩予防壁が設置されていて、雪崩から国道を守っています。

この予防壁にもちょっとした見どころがあります。壁には、「湯之谷焼」で作成された 14 枚の絵が埋め込まれています。尾瀬三郎伝説と銀採掘の歴史絵図です。下流側から順番に見ていくとストーリーがわかります。

なお、湯之谷焼は、旧湯之谷村で産出された土とコシヒカリの稲藁で作った釉薬によって生まれた焼き物です。

8　芋川の足湯

芋川の足湯

芋川温泉「けんぽセンター」の脇にある足湯です。ここは、地元の人と訪れた人とがゆっくりとくつろぎ語らえる場所として整備されました。足湯の中に置かれた陶器のおしゃれな椅子も地元の人と地域外の人とが共同でつくったものです。ぜひここに立ち寄ってゆっくりとくつろいでいってください。

9　下折立の疣水（いぼみず）

湧き出る疣水

昔、この釈迦堂に美しい尼僧が住職でおられました。尼僧は顔や手首に疣があるのが悩みで、村人に会うときはいつもそれを見えないように隠していました。ところがこの釈迦堂に湧き出る水で毎日洗ったところきれいに消えてなくなりました。その話を聞いた村人たちは「疣水」と名をつけて、大切に守ってきました。

　このような由来のある疣水は、新潟県の名水百選のひとつになっています。国道３５２号沿いの石段を登っていきます。閑静な釈迦堂の脇に湧き出ています。

10　爪彫十六羅漢像

修行中の僧、了儀が岩に爪で彫ったといわれる羅漢像です。風化防止のために岩はすっぽりと木製の祠に覆われています。よくよく見ると確かに彫られた羅漢像が描かれています。

　ここはかつての修行の地だけあって、今でも人気のない秘境の雰囲気をもつ場所です。折立新田の集落から大平山の林道を延々と登っていったところにあります。でも、安心、近くまで車で行けます。旧湯之谷村の文化財にもなっていて一見の価値があります。

岩を覆う祠

爪彫羅漢像
（魚沼市　内田弘義さん撮影）

11　魚沼マレットゴルフ場

広々としたマレットゴルフ場

　マレットゴルフは木槌をつかって玉を打つ、やさしいスポーツで、子供からお年寄りまでのんびりと手軽に楽しめます。道具はすべて貸し出してくれるので、手ぶらでおいでください。敷地内にはバーベキュー場もあり、こちらも手ぶらでOK！
（プレー料金 500 円、用具使用料 200 円）

バーベキュー場

13　大湯縁めぐり

　温泉街にある３つのポケットパークです。「月降園」「降舞園」「雪降園」があり、五穀豊穣、商売繁盛、健康祈願、家内安全などの願掛けができる仕掛けがあります。「降舞園」には足湯があります。

月降園

降舞園

雪降園

12　大湯公園

広大な敷地の中に、芝生広場、アスレチック、バーベキュー広場、ロックガーデン、ブナ林などがあります。そして、愛犬家に人気なのは、ドッグランです。ここで愛犬と一緒に思いっきり走り回ることができます。併設して日帰り温泉施設「ユピオ」もあります。一汗かいた後は、ゆっくりとここでおくつろぎください。

大湯公園

14　栃尾又の薬師堂

栃尾又温泉を守り続ける薬師堂は、六百余年の歴史があります。子宝祈願、夫婦円満など、参拝者が絶えません。境内にうっそうとそびえているのは、旧湯之谷村文化財にもなっている四本の大木です。「子持ち杉」「大杉」「同体欅」「夫婦欅」です。入浴後に子持ち杉の股を誰にも見られずに通過すると子宝に恵まれるという言い伝えもあります。

参拝する母娘

子持ち杉

大杉

夫婦欅

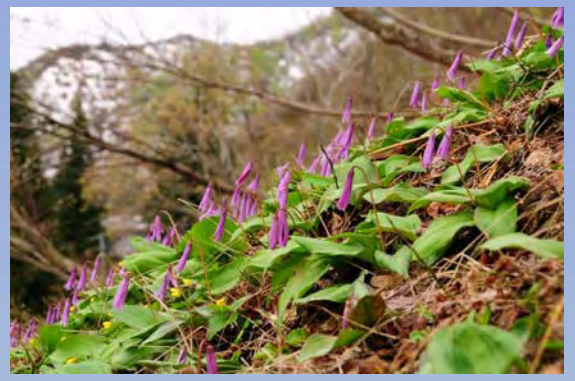
同体欅

15　かたっこ群生地

春まだ浅い山の斜面をピンク色に彩るカタクリ。

この地域の斜面には普通にカタクリがみられますが、ここは国道沿いの群生地なので、手軽に見ることができます。

この群生地は地域の有志の方々によって手入れが行なわれています。



群生地の春（長岡市　高田道夫さん撮影）

16　大手沢遊歩道

佐梨川の渓谷美を堪能できるおすすめのスポット。ぜひ訪れてみてください。美しい杉林の中に遊歩道が続いています。「渓谷たんけんポイント」で紹介した絶景「岩の廊下」はこの遊歩道を辿ります。東屋があるので、のんびりと腰掛けながら佐梨川の渓谷に浸ることができます。また、吊橋からの景色も最高です。

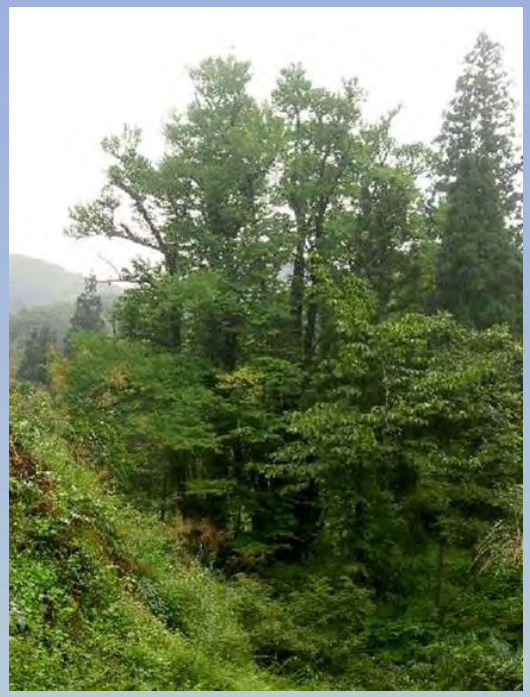
圧倒される渓谷美

※平成 21 年３月現在、遊歩道は、除草や階段等の整備がされていません。整備を予定していますが、現状等は、魚沼市観光協会（TEL：025-792-7300）でご確認ください。

吊橋

東屋

17　長瀬沢の大桂



大桂の全体

根元は株立ちしている

銀嶽橋手前の長瀬沢林道を延々とたどり、終点近くまでくると、突然、目の前にそびえる桂の大木を発見します。ひとつの株から数本の幹が出ていて、幹回りは十三m以上あり、新潟県下の桂の大木のなかでも上位にランクされるものです。旧湯之谷村文化財天然記念物に指定されています。ハート型のやさしい感じの葉は春は紅色に、秋には黄色に染まり、見る人をうっとりとさせてくれます。

18　駒ヶ岳の展望とブナ林

駒ノ湯手前　道から眺める駒ヶ岳
（魚沼市　桜井昭吉さん撮影）

駒ノ湯手前　道沿いのブナ林
写真上：新緑　下：紅葉　同じ場所
（魚沼市　桜井昭吉さん撮影）

案内図

国道３５２号から、駒ノ湯方面へ右に分岐する道を進みます。

この道から眺める駒ヶ岳は、越後駒ヶ岳を日本百名山に選んだ深田久弥が一番好きな姿だったといわれています。

また、この道沿いのブナ林も四季を通じて美しい姿で迎えてくれます。このブナ林は、樹齢約五〇～六〇年の比較的若い二次林です。深田久弥が日本百名山を刊行した昭和三八年はこのブナ林の梢の上から駒ヶ岳を眺めることができましたが、四〇年余り過ぎた現在はブナ林の木の間越しに駒ヶ岳が見られるようになりました。

【解説】
奥只見郷ネイチャーガイド
桜井昭吉さん

19　駒ノ湯橋と登山道吊橋

駒ノ湯手前の「駒ノ湯橋」からは、写真のような佐梨川の渓谷美をのぞむことができます。

写真左：新緑の季節　　写真右：紅葉の季節　（魚沼市　桜井昭吉さん撮影）

揺れる揺れる楽しい吊橋

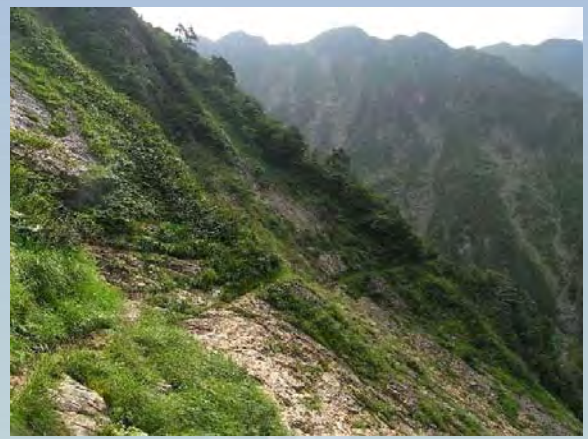
駒ノ湯橋のすぐ近くには、道行沢に架かる吊橋があります。この吊橋は、駒ヶ岳登山道となっていて、美しい渓谷を眺めることができます。

この吊り橋はおもしろいほどに揺れるのでスリル満点！子供も大喜びです。

案内図

20　佐梨川源流部の大岩壁

佐梨川源流部の大岩壁



雪に磨かれた岩壁　ここに道がついている

←　道沿いに佇む山の神

佐梨川源流部は、圧倒的な迫力の大岩壁に囲まれています。天に突き上げるような岩壁、雪崩に磨かれた岩肌は、北アルプスにも負けない迫力です。雪崩で沢底に溜まった雪は夏でも雪渓として残っています。佐梨川はこのような険しい場所から始まっていたのです。

この岩壁は、岩登りの上級者のルートとして知る人ぞ知る場所です。さらに驚くべきことに、いつの時代かは不明ですが、かつてはこの岩壁で採掘が行なわれていました。現在もその坑道が岩壁の途中に点在しています。そしてこの岩壁を欠き削るように造られた道も残っています。かなり荒廃しており、滑落の危険が高くもあります。途中には山の神も祀られています。

サイクリングロード

サイクリングロード　吉田橋付近

サイクリングロード　大湯付近

佐梨川沿いにサイクリングロードは2区間あります。ビハーラ佐梨川から野口橋までの区間は、途中にベンチや東屋があります。散歩やジョギングにも最適です。また、下折立のマレットゴルフ場脇から大湯公園の区間は、自転車専用道路にはなっていませんが、車がほとんど通らない舗装された林道を走ります。時々眼下に流れる佐梨川を見下ろすことができます。このサイクリングロードを使えば、魚野川合流部から大湯まで、快適にサイクリングすることができます。

湯之谷温泉郷

湯之谷温泉郷には、葎沢温泉、芋川温泉、折立温泉、大湯温泉、栃尾又温泉、駒ノ湯温泉、銀山平温泉の７つの温泉地があります。

湯之谷温泉郷の温泉はほとんどが単純泉で、栃尾又温泉だけが単純弱放射能泉（ラジウム泉）です。また、駒ノ湯温泉は関東甲信越随一の湧出量を誇っています。

大湯温泉と栃尾又温泉は、奈良時代初期に開湯されたという言い伝えがあります。正確な記録が残っているのは江戸時代の少し前からです。特に江戸時代に銀山平で採掘が行なわれるようになってからは、街道筋の温泉場として賑わうようになりました。

湯之谷温泉郷を歩くと、あちこちにお客さんへのちょっとした気遣いが感じられます。おいしいお米とお酒、豊富な山の幸も楽しめます。

← 温泉郷の旅館やお店には、このような立て札があり、お客さんをやさしくもてなしている。

散歩をする人のための、ベンチ。所々にある。 →

芋川温泉
森に囲まれた湖畔の宿

葎沢温泉
リニューアルオープン

駒ノ湯温泉
秘湯、野趣あふれる一軒宿

栃尾又温泉
歴史ある佇まいにうっとり

大湯温泉
せせらぎと風情ある温泉街

折立温泉
佐梨川沿いの閑静な温泉

芋川温泉
自然の遊び場いっぱい

伝統行事　百八灯

百八灯と同時に行なわれる「名物六人づき」
（魚沼市観光協会提供）

冬の夜の山を明るく灯すお祭りです。約380年くらい前の寛永年間からはじまったといわれています。3月の初午の日の前夜、尾根に運んだ藁束に火を付け、五穀豊穣と無病息災を祈ります。

現在はより多くの人が参加できるように、初午の日にこだわらず、3月第一日曜日を祭りの日にしています。

地元の人だけではなく、市外・県外からのお客さんも大勢います。祭りにあわせて、マレットゴルフ場を会場に、食べ物無料の様々なイベントが行われています。

下折立の百八灯
（魚沼市　桜井昭吉さん撮影）

イベント　枝折峠ヒルクライム

国道352号線の大湯温泉をスタートし枝折峠を登る、距離14km、高低差750mの自転車レースです。毎年8月に行なわれ、2008年には7回目となりました。近年では500人ほどのサイクリストたちが全国から参加するようになりました。

地元の手作り感あふれる温かいおもてなしと声援が好評で、リピーターが多数の人気の大会です。ゴールすると八色スイカや魚沼コシヒカリのおにぎりが振舞われます。

前夜祭も楽しいので、大会の際には大湯温泉郷でぜひ宿泊を！心のこもったおもてなしが待っています。

←待ってましたのスタート
（魚沼市観光協会提供）

イベント　結　8万8千の雪灯り

↑　結・オープニングイベント
「結」の文字にろうそくを灯す

薬師スキーカーニバルにて　→
ほんのりと灯る「ねこバス」の雪像

（写真は2枚とも、魚沼市観光協会提供）

1月の新月の日から3月上旬の百八灯の日までの期間、魚沼市内でイベントがある夜には、市内のいたるところでろうそくの灯がともります。

魚沼市民4万4千人が自宅前やイベント会場にろうそくの灯を2本ずつともします。1本は復興を願うみんなのために、もう1本は自分のために。皆の思いが町をやさしく照らします。

ぜひ、見に来てください。そして、祭りイベントにも参加してください。